1　チーム医療で正しいのはどれか。

a　多職種で構成される。

b　通常、医師は含まれない。

c　情報を共有する必要はない。

d　患者の家族情報は必要ない。

e　チームリーダーは看護師が担当する。

2　拡張期ランブルを聴取**しない**疾患はどれか。

a　大動脈弁閉鎖不全症

b　僧帽弁閉鎖不全症

c　大動脈弁狭窄症

d　心房中隔欠損症

e　僧帽弁狭窄症

3　正しいのはどれか。

a　指鼻試験は小脳障害で拙劣となる。

b　舌が右に偏位する場合は左の舌下神経障害を示す。

c　中枢性顔面神経麻痺では額のしわ寄せができない。

d　深部腱反射が亢進している時は末梢神経障害である。

e　眼瞼下垂は上眼瞼が虹彩にかかった場合に陽性ととる。

4　写真のような爪の変化をきたす原因はどれか。

a　白癬菌感染

b　葉酸欠乏症

c　鉄欠乏性貧血

d　抗癌化学療法

e　成人T細胞性白血病

写真

5　根拠に基づいた医療（EBM）においてエビデンスレベルの高いのはどれか。

a　症例研究

b　コホート研究

c　患者対照研究

d　メタアナリシス

e　ランダム化比較試験

6　脈拍数が**減少する**のはどれか。

a　吸気時

b　起立時

c　緊張時

d　発熱時

e　睡眠時

7　筋性防御を**伴わない**のはどれか。

a　尿路結石

b　急性胆嚢炎

c　急性虫垂炎

d　大腸憩室炎

e　十二指腸潰瘍穿孔

8　検査前確率が10％の患者に陽性尤度比が9の検査を行い陽性だった。検査後確率はいくらか。

a　10％

b　30％

c　50％

d　70％

e　計算できない

9　専門施設での加療が**必要でない**熱傷はどれか。

a　両下肢Ⅱ度熱傷

b　低電圧による電撃症

c　頸部全周性Ⅰ度熱傷

d　嗄声を伴う顔面熱傷

e　水酸化ナトリウムによる化学熱傷

10　関節リウマチの病変が出現する頻度が**最も低い**のはどれか。

a　足関節

b　膝関節

c　肩鎖関節

d　近位指節関節

e　中手指節関節

11　高線量全身被爆の症候で**誤り**はどれか。

a　嘔　吐

b　下　痢

c　頭　痛

d　低体温

e　意識障害

12　左肺上葉、第１弓に接する進行肺癌の患者に嗄声を認めた。
考えられるのはどれか。

a　迷走神経麻痺

b　尺骨神経麻痺

c　顔面神経麻痺

d　交感神経麻痺

e　横隔神経麻痺

13　血清アルカリフォスファターゼ値が**上昇しない**のはどれか。

a　胆汁うっ滞

b　転移性骨腫瘍

c　潰瘍性大腸炎

d　甲状腺機能低下症

e　原発性胆汁性肝硬変

14　医療面接の対応として**不適切**なのはどれか。

a　傾聴することが重要である。

b　開放型質問から始めるとよい。

c　患者の愁訴に共感的態度を示す。

d　患者に自分の名前を名乗ってもらう。

e　医学的根拠がない質問には応じない。

15　閉鎖型質問はどれか。

a　「痛いのは、眼ですか、鼻ですか、耳ですか」

b　「他に何か御気づきのことはありますか」

c　「その後はどうなりましたか」

d　「今日はどうなさいましたか」

e　「吐き気はありますか」

16　口腔咽頭の所見を示す。矢印に関連する部位はどこか。

a　顎下腺

b　耳下腺

c　舌扁桃

d　咽頭扁桃

e　口蓋扁桃

口腔咽頭の所見

17　複視をきたすのはどれか。

a　眼窩吹き抜け骨折

b　視神経管骨折

c　下顎骨骨折

d　鼻骨骨折

e　頬骨骨折

18　二本鎖DNAのある領域に含まれるグアニンの割合は全塩基の23％であった。
チミンの割合はどれか。

a　23％

b　25％

c　27％

d　46％

e　54％

19　日本人が被爆・被曝した出来事のうち、３番目に古いのはどれか。

a　第五福竜丸事件

b　東海村JCO臨界事故

c　長崎原爆投下

d　広島原爆投下

e　福島原子力発電所事故

20　医療法に規定されているのはどれか。

a　処方箋の交付義務

b　診療録の保有義務

c　患者への情報提供

d　医師国家試験の実施

e　無診察治療等の禁止

21　腹腔穿刺で正しいのはどれか。

a　癌性腹水の穿刺は禁忌である。

b　穿刺を行うには全身麻酔が必要である。

c　腹水ドレナージは短時間で行うべきである。

d　腹直筋外縁より外側が穿刺部位に適している。

e　穿刺部位の確認に腹部単純エックス線は有用である。

22　50歳の女性。以前に胆石を指摘されている。肝硬変で通院中であったが夕食に天ぷらを食べた後に右季肋部に疝痛を認め救急外来を受診した。意識は清明。眼瞼結膜に貧血なし。顔貌は苦悶状。呼吸は速迫している。血圧 130/50 mmHg。腹部視診では異常を認めなかった。

腹部の診察で次に行うべきことはどれか。

a　圧痛点を確認

b　右叩打痛を確認

c　マーフィー徴候を確認

d　聴診にて腸蠕動音を確認

e　打診にて腹水の有無を確認

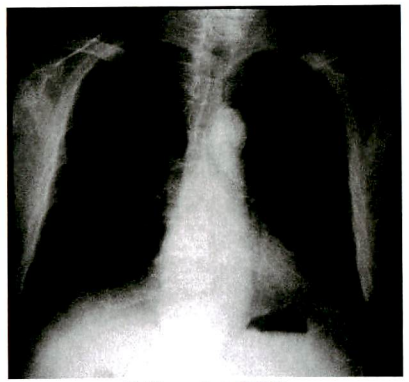
23　53歳の男性。５年前に会社の健康診断で高血圧を指摘されていたが放置していた。今年は健康診断を受けていない。本日、朝の家庭血圧測定値が 154/102 mmHg と高値で、妻に勧められ来院した。経過中に失神発作や神経症状、胸部症状は自覚していない。

家族歴：特記すべきこと無し。生活歴：飲酒なし、喫煙なし。

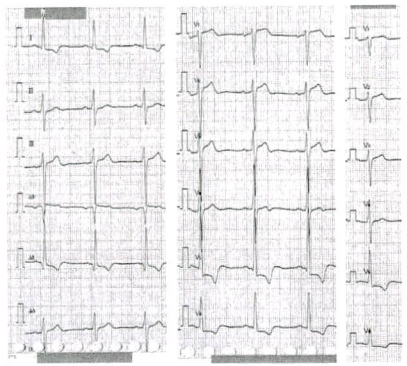
身長 162 cm、体重 40 Kg。脈拍 82/分、整。血圧 158/98 mmHg。

意識清明、胸部：心音に異常なし、呼吸音に異常なし。腹部：血管雑音なし、腫瘤触知なし。両下肢に浮腫なし。

胸部エックス線写真と心電図を示す。



胸部エックス線写真



心電図

鑑別診断のために**有用でない**検査項目はどれか。

a　血清TSH値

b　血清BNP値

c　血清カリウム値

d　血清クレアチニン値

e　血漿レニン活性に対する血清アルドステロン濃度の比

24 51歳の女性。20歳からのヘビースモーカーで、喀血を主訴として受診した。精査の結果、多発性骨転移を伴う肺腺癌と診断が確定した。Performance status は1で、肝機能・腎機能などの臓器機能は保たれている。上皮増殖因子受容体（EGFR）の遺伝子変異はない。2か月前からシスプラチン＋ペメトレキセドの治療を開始して部分寛解が得られている。この治療とは別に他院で代替療法を行っていたことが分かった。

これを知った主治医はどういう態度で患者に話をすべきか。

a　特に問題にせず、放置しておく。
b　代替療法によって何を期待しているのかを聞く。
c　なぜ主治医に断りもなくそのような治療を併用したかを聞く。
d　代替療法を併用するなら副作用などの点で責任は持てないと言う。
e　代替療法は効果に乏しく非科学的だから直ちに中止するように言う。

25 55歳の女性。健診にて異常を指摘され、来院した。喫煙歴はなく、アルコールは機会飲酒である。週1回1時間ダンス教室に参加しているが、移動は殆ど自家用車である。父が高血圧、糖尿病であった。健診結果は、身長155 cm、体重67 kg。血圧146/78 mmHg。心電図異常なし、胸部エックス線で異常所見なし、尿糖陰性、尿蛋白陰性、便潜血陰性。総コレステロール240 mg/dl、空腹時血糖116 mg/dl。子宮ガン検診は未受診。

この患者の生活指導項目に該当**しない**のはどれか。

a　体重測定
b　塩分制限
c　タンパク質制限
d　ウォーキング習慣
e　食事エネルギー制限

26 74歳の女性。食思不振が2週間程続き、元気がないため受診した。精査と治療のために入院することになった。小児用点滴キットを用いて、1日1,500 mlの維持輸液を点滴静注することにした。

滴数は毎分何滴に合わせればよいか。

a　20
b　40
c　60
d　80
e　100

27 44歳の女性。乳腺腫瘤を主訴に受診した。

乳房の診察で必要なのはどれか。

a　座位で触診
b　変形の有無を確認
c　頸部リンパ節を触診
d　症状のある乳房のみ診察
e　あとでわかるように写真撮影

28 0歳の新生児。在胎32週2日、出生体重2,050 gにて出生した。出生時、呼吸障害のため気管内挿管され、人工呼吸器を使用されている。日齢0にA医師は、気管内チューブが事故抜管されたことに気がつかず、5分以上経過した後に蘇生を試み、一命は取りとめた。この病院は、日本医療機能評価機構の認定病院である。

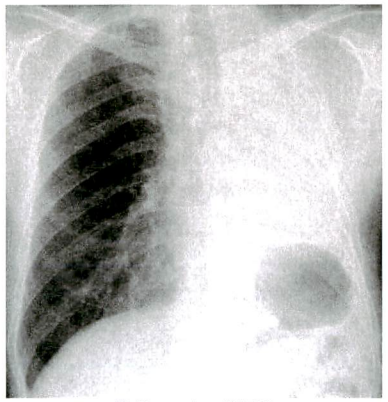
正しいのはどれか。

a　医師に対し1年間の医業停止を命じる。
b　事故抜管となった事実を、警察に報告する。
c　病院内に医療安全を検討する委員会を設置する。
d　事故抜管となった事実を、厚生労働省に報告する。
e　事故抜管となった事実を、医薬品医療機器総合機構に報告する。

29 65歳の男性。肺癌のため左肺全摘術を受け、経過観察のため術後6か月に来院した。胸部エックス線写真正面像を示す。

この患者に認められるのはどれか。

a　腹　痛
b　チアノーゼ
c　肺肝境界消失
d　心濁音界拡大
e　左呼吸音減弱



胸部エックス線写真

30　63歳の男性。C型肝硬変のため通院治療中であったが、腹部超音波検査で1個の肝腫瘤を指摘された。血液所見：赤血球352万、白血球2,500、血小板12万。血液生化学所見：総蛋白7.1 g/dl、アルブミン2.8 g/dl、総ビリルビン2.4 mg/dl、AST 84 IU/l、ALT 48 IU/l。AFP 169 ng/ml（基準20以下）、CEA 3.7 ng/ml（基準5以下）。ICG試験（15分値）24％（基準10％以下）。腹部造影CT動脈相および平衡相を示す。

肝腫瘤に対する治療として**適切でない**のはどれか。

a　外科的切除
b　ラジオ波焼灼術
c　インターフェロン療法
d　経皮的エタノール注入療法
e　経カテーテル肝動脈化学塞栓療法

腹部造影CT動脈相

腹部造影CT平衡相

31　55歳の男性。基礎疾患なし。飲酒歴は機会飲酒。タバコは10本/日。アレルギー歴は特記なし。5日前交通事故に遭い、救急搬送され治療後、現在入院している。

この患者にもっとも**起らない**と考えられるのはどれか。

a　夜間せん妄
b　通過症候群
c　失外套症候群
d　コタール症候群
e　急性精神病性障害

32　32歳の男性。発熱、頭痛に肺炎症状を伴って、頭部顔面を含めて全身に臍窩を有する小水疱が多発し、粘膜疹もあり来院した。2週間前に子供が同じような発疹が出たが軽症だったとのことであった。

最も考えられる疾患はどれか。

a　風　疹
b　麻　疹
c　水　痘
d　帯状疱疹
e　伝染性単核球症

33　65歳の男性。日中はほぼ2時間に1度の排尿、また、夜間は3回から4回トイレに起きることを訴え、来院した。身長165 cm、体重84 kg。腹囲98 cm。血圧156/94 mmHg。尿所見：蛋白3＋、糖2＋、潜血3＋。尿沈渣：赤血球10-19/1視野、白血球20-30/1視野。血算：白血球7,600、赤血球356万、Hb 12.0 g/dl、血小板15.6万。血液生化学所見：尿素窒素42 mg/dl、クレアチニン1.8 mg/dl、尿酸8.2 mg/dl、AST 40 IU/dl、ALT 34 IU/dl。

この患者に必要な検査はどれか。

a　骨盤造影MRI
b　腹部造影CT
c　逆行性腎盂造影
d　経直腸的超音波
e　腎動脈血管造影

次の文を読み、34～35の問いに答えよ。

75歳の男性。右利き。５年前から高血圧と糖尿病で通院中である。

３日前に飲酒後、右手が５分間動かなくなった。その後、麻痺はすぐに改善したが昨日も入浴後に一過性に言葉が出なかった。本日夕食後、右片麻痺が出現したため救急外来受診した。意識は清明。体温36.4℃。脈拍98／分、整。血圧178/92 mmHg。血液検査と頭部CT上明らかな異常は認めない。受診時には右片麻痺は消失しており、神経学的には異常所見を認めない。

34 この患者への対応として適切なものはどれか。

a　緊急入院とする。

b　翌日の外来受診後入院とする。

c　24時間以上、症状が持続する場合入院とする。

d　頭部MRIを追加して、異常を認めた場合入院とする。

e　降圧薬投与にて血圧が正常化しない場合入院とする。

35 脳血流シンチ結果を図に示す。診断に最も有用な検査はどれか。

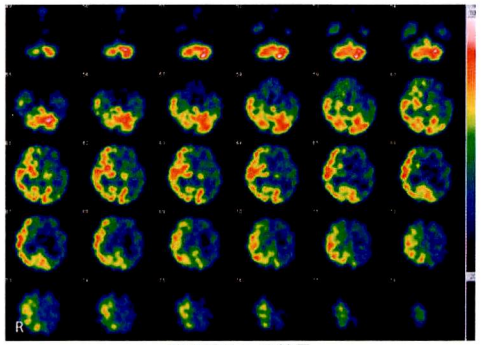
a　大動脈造影CT

b　経頭蓋超音波

c　頸動脈超音波

d　経食道心臓超音波

e　PET（ポジトロンエミッション断層撮影）



脳血流シンチ結果

次の文を読み、36～37の問いに答えよ。

70歳くらいの男性。病院正面玄関で突然倒れた。呼びかけに反応なく、呼吸を感じることができず、頸動脈でも拍動をふれないことからCPR（心肺蘇生）を開始した。

36 外来に備え付けのAEDを装着したところ図のようなモニター波形であった。
この心電図所見で正しいのはどれか。

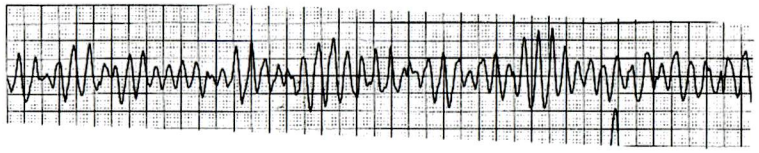
a　心室頻拍

b　心室細動

c　WPW症候群

d　心室性期外収縮

e　発作性上室性頻拍



モニター波形

37 原因として頻度の高いのはどれか。

a　肺気腫

b　脳出血

c　脳腫瘍

d　腹部大動脈瘤

e　急性心筋梗塞

次の文を読み、38～39の問いに答えよ。

48歳の男性。健康診断で異常を指摘され来院した。

現病歴：会社の健康診断でメタボリックシンドロームと診断された。仕事が忙しく深夜に帰宅し、夜食もとっている。食事は外食が主である。この1年間で体重が12 kg増えている。全身状態は良好である。

既往歴：特記すべきことはない。

生活歴：会社員。飲酒は機会飲酒。喫煙歴はない。

家族歴：父と兄が糖尿病で治療中。

現　症：身長165 cm、体重76 kg。体温36.4 ℃。脈拍60回/分、血圧148/80 mmHg。診察所見上、特に異常所見は認めない。

検査所見：血液所見：赤血球428万、Hb 13.8 g/dl、Ht 34 %、白血球8,800、血小板32万。

血液生化学所見：総蛋白7.0 g/dl、アルブミン3.8 g/dl、尿素窒素26 mg/dl、クレアチニン0.7 mg/dl、総ビリルビン1.2 mg/dl、AST 28 IU/l、ALT 24 IU/l。甲状腺ホルモン、ACTH、コルチゾールは正常。

38　特定健康診査によるメタボリックシンドローム診断の基準に**含まれない**のはどれか。

a　腹　囲
b　体　重
c　血　圧
d　空腹時血糖値
e　トリグリセリド

39　この患者の指導事項として最も適切なのはどれか。

a　就労時間の短縮
b　睡眠時間の確保
c　食生活の改善
d　経過観察
e　禁　酒

次の文を読み、40～41の問いに答えよ。

15歳の男性。そば饅頭を食べた後に突然嘔吐し、全身蒼白となり、呼吸苦を主訴に救急搬入された。これまでに、サバを食べて蕁麻疹が出たことがある。意識レベルはＪＣＳＩ-1。四肢に冷感を認める。脈拍135/分、整。血圧68/40 mmHg。全肺野にwheezesを聴取する。心音に異常なし。腹部：異常所見なし。動脈血ガス（自発呼吸、room air）：pH 7.45、PaO_2 67 Torr、$PaCO_2$ 36 Torr、HCO_3^- 24 mEq/l。

40　考えられる病態はどれか。

a　腸閉塞
b　不整脈
c　てんかん発作
d　敗血症ショック
e　アナフィラキシーショック

41　初期の処置として適切なのはどれか。

a　抗菌薬投与
b　胸部エックス線撮影
c　エピネフリンの皮下注
d　５％ グルコース輸液
e　イソプロテレノール静注